

シュッコンカスミソウの据置株の 開花促進に有効な間欠照明方法

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

花きーカスミソウー環境調節、作型・栽培型

2 担当者

大竹真紀・星佳織

3 要旨

シュッコンカスミソウの据置株は6～7月に開花期が集中するため、電照による開花調節は有効な手段である。「ベールスター」と「アルタイルMD」を用い、電照栽培の省電力化を検討したところ、LED電球を使用した暗期中断4時間のうち15分照明15分休止の周期による間欠照明は連続照明と同程度に開花を促進し、消費電力を半減できた。

- (1) 「ベールスター」と「アルタイルMD」の据置株に対して、光源にLED電球（一般電球形電球色 LDA8LGK(7.8W810lm)を使用し、22:00～2:00の暗期中断で採花終了まで電照処理を行った。
- (2) 暗期中断における15分照明15分休止の周期による間欠照明は、連続照明と同程度に開花を促進した(表1)。5分照明10分休止周期の間欠照明は、連続照明より開花が遅れるものの電照なしに比べて開花を促進した(表1)。
- (3) 切り花品質は、電照方法による差はみられなかった(データ省略)。
- (4) 15分照明15分休止の周期による間欠照明の1日当たりの消費電力は、連続照明の51%であった。

表1 シュッコンカスミソウ据置株の電照方法の違いと採花期

耕種概要 (月/日)	品種	電照方法	採花期(月/日)			到花日数 ¹⁾ (日)	
			始期(10%)	盛期(50%)	終期(90%)	電照なし比	
雨よけハウス	ベールスター	5-10	6/22	6/25	6/28	54	-3
		15-15	6/21	6/24	6/27	53	-4
		連続	6/20	6/23	6/27	52	-5
		なし	6/26	6/28	6/29	57	-
屋根被覆:4/4 切り戻し:4/5 電照開始:4/12 芽整理:5/1	アルタイルMD	5-10	6/27	6/29	7/2	58	-2
		15-15	6/27	6/30	7/4	59	-1
		連続	6/27	6/29	7/2	58	-2
		なし	6/30	7/1	7/4	60	-
一重被覆ハウス	ベールスター	5-10	6/6	6/12	6/21	52	-2
		15-15	6/4	6/8	6/15	48	-6
		連続	6/3	6/6	6/19	46	-8
		なし	6/11	6/14	6/23	54	-
外張被覆:3/23 側窓25℃開閉 切り戻し:4/2 電照開始:4/2 芽整理:4/20	アルタイルMD	5-10	6/12	6/15	6/21	55	-3
		15-15	6/10	6/13	6/19	53	-5
		連続	6/10	6/14	6/18	54	-4
		なし	6/13	6/18	6/22	58	-

試験地:会津地域研究所。雨よけハウス栽培は平成29年、一重被覆ハウス栽培は平成30年。

電照方法:光源はLED電球(一般電球形電球色LDA8LGK(7.8W810lm)、22:00～2:00の暗期中断、5-10は5分照明10分休止、15-15は15分照明15分休止の繰り返し、連続は4時間連続照明。

1) 芽整理日～採花盛期までの日数。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成29年度～30年度
- (2) 研究課題名 会津地域の特色を活かした野菜・花きの高品質安定生産技術の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成29年度普及成果「太陽光移動蓄電装置で、シュッコンカスミソウの電照栽培がどこでも可能となる」
- (2) 平成26年度普及成果「宿根カスミソウ品種「ベールスター」の6月前半出荷技術」